

# 水道事業

区 分	令和元年度	平成30年度			算 出 方 法
		久留米市	全国平均	類似規模 平均	
<b>長期的健全性</b>					
1 固定資産構成比率(%)	87.3	88.1	88.8	87.4	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延資産}} \times 100$
2 固定負債構成比率(%)	20.7	21.3	23.7	26.6	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$
3 自己資本構成比率(%)	76.1	74.9	72.1	69.4	$\frac{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}}{\text{総資本}} \times 100$
4 固定資産対 長期資本比率(%)	90.2	91.6	92.8	91.0	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}+\text{固定負債}+\text{繰延収益}} \times 100$
5 固定比率(%)	114.8	117.6	123.3	125.8	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}} \times 100$
<b>短期的支払能力</b>					
6 流動比率(%)	391.7	310.5	261.5	318.9	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
7 当座比率(%)	367.2	309.5	249.8	302.5	$\frac{\text{現金預金}+(\text{未収金}-\text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$
8 現金比率(%)	320.3	267.7	224.4	270.9	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$
<b>資産・資本の有効利用等</b>					
9 自己資本回転率(回)	0.1	0.1	0.1	0.1	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{(\text{期首自己資本}+\text{期末自己資本}) \div 2}$
10 固定資産回転率(回)	0.1	0.1	0.1	0.1	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{(\text{期首固定資産}+\text{期末固定資産}) \div 2}$
11 当年度減価償却率(%)	3.9	3.8	4.1	4.2	$\frac{\text{当年度減価償却額}}{\text{固定資産(有形+無形)}-\text{土地}-\text{建設仮勘定}+\text{当年度減価償却額}} \times 100$
<b>利益率・収益性</b>					
12 総資本利益率(%)	1.5	1.4	1.2	1.2	$\frac{\text{当年度経常利益}-\text{当年度経常損失}}{(\text{期首総資本}+\text{期末総資本}) \div 2} \times 100$
13 総収支比率(%)	117.6	115.1	112.8	112.7	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
14 経常収支比率(%)	117.2	115.2	112.8	112.6	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
15 営業収支比率(%)	113.4	111.9	104.9	104.2	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$

# 経営分析表

区 分	令和元年度	平成30年度			算 出 方 法
		久留米市	全国平均	類似規模 平均	
<b>企業債関連</b>					
16 利子負担率(%)	1.1	1.2	1.9	1.8	$\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債} + \text{一時借入金}} \times 100$
17 企業債償還元金対減価償却額比率(%)	54.2	51.3	53.1	53.7	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費}} \times 100$
18 企業債償還元金対料金収入比率(%)	18.2	16.5	20.9	20.3	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{料金収入}} \times 100$
19 企業債利息対料金収入比率(%)	2.3	2.5	5.2	5.2	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$
20 企業債元利償還元金対料金収入比率(%)	20.5	19.0	26.1	25.5	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還元金}}{\text{料金収入}} \times 100$
<b>職員関連</b>					
21 職員給与対料金収入比率(%)	12.3	11.8	11.3	12.1	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{料金収入}} \times 100$
22 職員一人当たり営業収益(千円)	73,250	75,135	75,619	68,910	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$
23 職員一人当たり有形固定資産(千円)	490,660	497,164	580,131	496,205	$\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数} + \text{資本勘定所属職員数}}$

(備考)

- 1 総資本は、負債と資本との合計額を用いて算出している。
- 2 No.9の自己資本は、資本金、剰余金、評価差額等及び繰延収益の合計額を用いて算出している。
- 3 No.21の職員給与対料金収入比率の算出要素である職員給与費は、損益勘定所属職員に係る給与費用を用いている。
- 4 類似規模平均欄の数値は、本市と類似規模の都市である給水人口15万人以上30万人未満の市の水道事業者の平均値を表している。
- 5 全国・類似規模平均欄の数値は、「地方公営企業年鑑」(総務省)の「第1編 第3章 1.水道事業(19)水道事業集計表(法適用)」の数値を用いている。